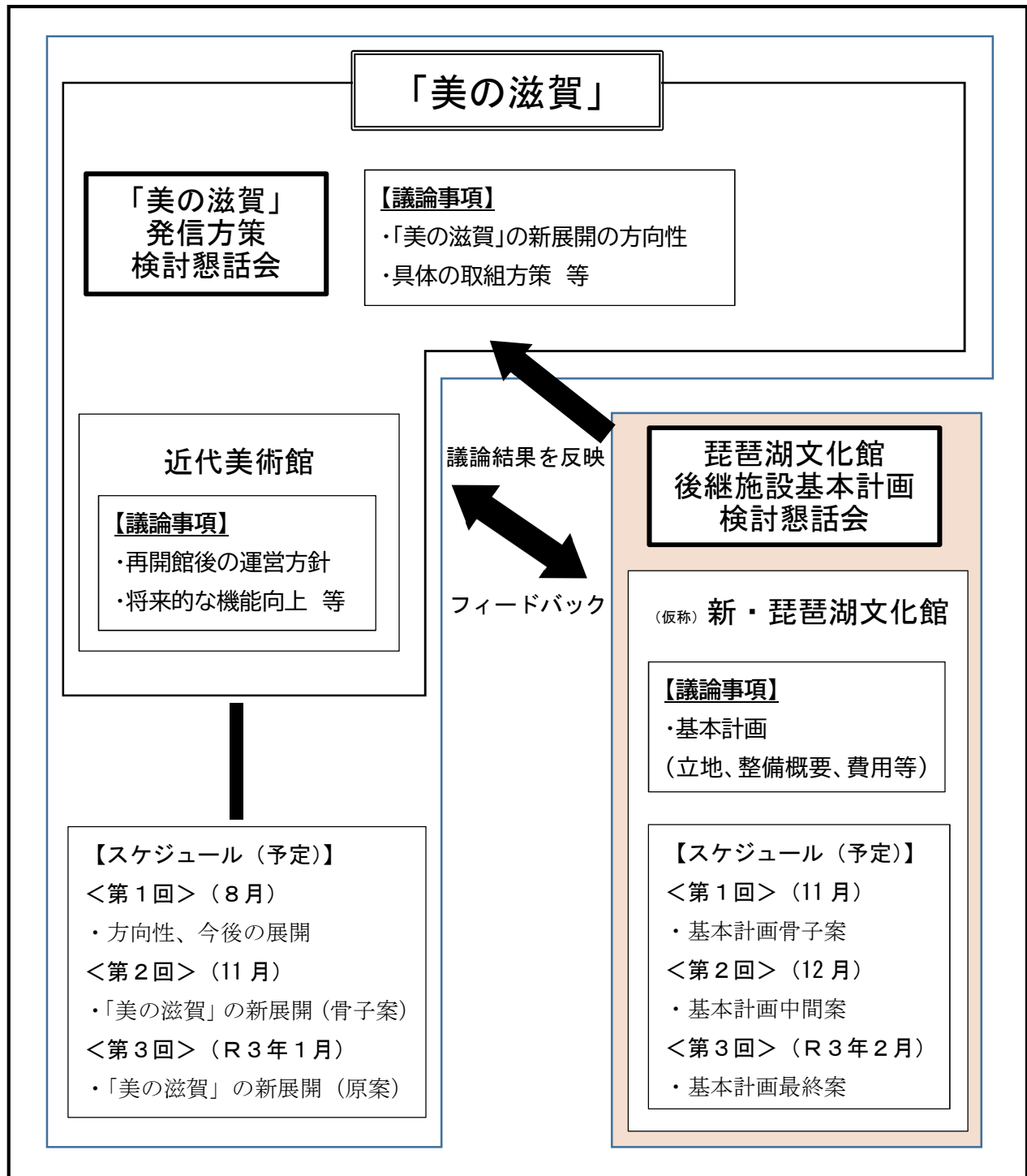


## 今年度の「美の滋賀」にかかる検討について



# 「美の滋賀」の新展開の方向性

## ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

### 1. 基本的な考え方

- コロナ禍により、心の拠り所としての文化芸術や美に対する希求・渴望が高まっている。また、「都市から地方へ」の流れの中で、地域の自然や文化の魅力・価値を再評価する動きも活発化している。
- こうした状況を、多様な滋賀の美の魅力を広く発信する好機と捉え、今後は、「美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に」という美の滋賀で目指してきたコンセプトの具現化に向けて、関係者との連携のもと、滋賀の美の魅力を全体として発信していく。

### 2. 美の滋賀の新展開の方向性（主な取組）

#### (1) 交流や発信の場づくり

- ①美やアートを通じた交流・発信の拠点として、再開館後の近代美術館にプラットフォームを設置（美の滋賀に関する企画、美の資源の一体的発信、応援団づくり、アート・サポーターの育成、地域・団体等の取組支援、県内若手作家の支援、相談・コーディネート）
- ②出会い、つながり、発信の場・機会の創出（（仮称）アートのひろば）  
（文化ゾーンをフィールドに、アート等に関するイベント・ワークショップを毎月開催）

#### (2) ネットワークを活かした多面的な発信

- ①県立施設間の連携
- ②公立・私立の枠を超えた県内美術系ミュージアム等の連携
- ③滋賀県博物館協議会（県博協）との連携
- ④中核を担う美術館と文化館の発信・連携

#### (3) 美術館改革

- ①再開館に向けて（従来の施設イメージ刷新、VIデザイン導入、ウェブサイト全面リニューアル）
- ②再開館後の展開（展覧会改革、アート体験の多様化、公園内施設との有機的連携、美術館に至るまでのワクワク感の演出、経営の健全化）
- ③さらなる施設機能の向上（収蔵庫の収容力向上、ギャラリーの充実、施設の長寿命化）

#### (4) 琵琶湖文化館のリスタート

【今年度策定する（仮称）新・琵琶湖文化館基本計画の主な検討事項】

- ①基本理念（近江の文化財で“つなぐ”“ひらく”未来の滋賀）
- ②施設像（近江の文化財のミュージアム、地域の文化財のサポートセンター、文化観光の拠点となるビジターセンターの機能を有する）
- ③活動（視点：県内歴史文化系博物館の核となる役割、誰もが利用しやすい工夫、コロナ後の社会を見据えた博物館）
- ④立地（近代美術館周辺、現琵琶湖文化館周辺[大津港港湾業務用地、ウカルちゃんアリーナ跡地]）
- ⑤その他、施設整備計画、展示計画、運営計画、事業推進計画 等